会員各位

岐阜県病院薬剤師会
会長　遠藤　秀治

第 287 回岐阜県病院薬剤師会研修会開催のご案内

拝啓
　時下、先生におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。
さて、下記のとおり研修会を開催しますので、奮ってご参加頂きますようご案内致します。

敬具

記

日時：平成 26 年 6 月 7 日（土）午後 3 時 00 分より
場所：長良川国際会議場　4 階　大会議室
岐阜市長良福光 2695－2　　Tel　(058) 296－1200

【内容】　　総合司会　　平野総合病院　薬剤科　　高橋　悟

１、　会長挨拶

２、　薬学生実務実習報告

～受け入れ側～
１．岐阜県における病院実務実習の現状と課題
薬学生実務実習委員会　関谷　泰明　先生

２．岐阜市民病院における実務実習の取り組み
岐阜市民病院　甲田　明英　先生

～学生の立場より～
１．病院実習での症例報告
岐阜薬科大学 6 回生　齋尾　真希　先生

２．薬局実習で学んだこと
岐阜薬科大学 6 回生　鈴木　俊之　先生

３．病院実務実習を経験して
金城学院大学 6 回生　平工　明里　先生

参加費：薬剤師会会員　500 円　非会員　2000 円
＊ 当研修会は岐阜県病院薬剤師会研修制度及び日本薬剤師研修センター研修制度に該当する研修会です。

主催　岐阜県病院薬剤師会

岐阜県における病院実務実習の現状と課題

薬学生実務実習委員会　関谷 泰明

薬学生実務実習委員会では病院・薬局実務実習東海地区調整機構より実習先の割り振りが依頼され、学生の通学時間が 1 時間以内を目安として割り振りを行っている。

岐阜県病院薬剤師会会員施設の実務実習受入状況は平成 23 年度 128 名、平成 24 年度 149 名、平成 25 年度 168 名、平成 26 年度 162 名である。平成 25 年度と比べ学生数が減少した平成 26 年度の割り振りでは、学生の通学時間を考慮し実習受入施設・受入人数を調整したが、昨年度と同様に岐阜ブロックにおける受入学生数が多かったため、他ブロックへ割り振りを行う必要があった。今後も東海地区の学生が増加傾向であり、県内の実習受入施設の増やす必要がある。日本病院薬剤師会の実習受入施設の要件としては、下記の通りである。県内でもこの要件を満たす受入施設が複数あり、当委員会でも新規受入施設の支援を行っていく予定である。

日本病院薬剤師会「病院における長期実務実習に対する基本的な考え方」

【受入施設の要件】

ａ）原則として、病床数が１００床以上であること。

ｂ）薬剤管理指導業務を実施していること。

ｃ）認定実務実習指導薬剤師が１名以上配置されていること。

ｄ）原則として、認定実務実習指導薬剤師の指導を補完するに相応しい薬剤師（日本病院薬剤師会認定指導薬剤師）が配置されていること。

ｅ）日本病院薬剤師会賠償責任保険（病院契約）又はこれと同等の賠償責任保険に加入していること。

岐阜市民病院における実務実習の取り組み

岐阜市民病院薬剤部　甲田　明英

岐阜市民病院薬剤部では、実務実習指導薬剤師が岐阜薬科大学教員と協同して、実務実習生の教育・指導を行っている。今回は、岐阜市民病院薬剤部における実務実習とアドバンストプログラムとして実施している「薬剤師による講義」および「C 型肝炎 3 剤併用療法あるいは外来がん化学療法を通じた患者モニタリング」について紹介する。「薬剤師による講義」では、入職 2 年目以上の薬剤師が実務実習生に対し実践的・経験的な内容を盛り込んだ講義を実施している。その目的は、多岐にわたる診療科すべての疾患において、薬剤管理指導を経験できないため、薬剤師による講義を行うことで、経験できない疾患、病棟での経験を学習することで、従来の実務実習より、幅広い実務実習を行うためである。また、「C 型肝炎 3 剤併用療法あるいは外来がん化学療法を通じた患者モニタリング」では、実務実習開始初期から、実務実習生 1 人に対し C 型肝炎 3 剤併用療法あるいは外来がん化学療法を受けている患者 1 人を割り当て、電子カルテ調査や面談等による自発的な患者モニタリングを実施している。両アドバンストプログラムは、実務実習生の満足度が高く（アンケート調査による）、今後も引き続き実施する予定である。

学術講演会のご案内

謹啓

　時下、先生におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび下記のとおり学術講演会を開催させていただく運びとなりました。
ご多忙中誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内申し上げます。

謹白

記

日時：平成 26 年 6 月 7 日（土）午後 4 時 30 分より

場所：長良川国際会議場　４階　大会議室

岐阜市長良福光 2695-2　℡（058）296―1200

■情報提供

『選択的 SGLT2 阻害剤　フォシーガ錠について』

アストラゼネカ株式会社

■特別講演

座長　木沢記念病院　薬剤部長　加藤武司　先生

『糖尿病治療の変遷と薬剤師の役割』

～新規糖尿病治療薬 SGLT2 阻害剤への期待～

北里大学病院　薬剤部長・教授　厚田幸一郎　先生

共催　岐阜県病院薬剤師会
小野薬品工業株式会社
アストラゼネカ株式会社

※　講演会終了後、グループディスカッションを計画しております。

糖尿病薬物療法の変遷と薬剤師の役割　－新規糖尿病治療薬 SGLT2 阻害剤への期待―

北里大学病院薬剤部長・教授　厚田幸一郎

糖尿病の患者数は年々増加の一途をたどり、重症合併症も増加している。これに対応して糖尿病治療は多様化し、とくに、糖尿病の薬物療法は DPP-4 阻害薬の上市により、大きな変革の時期を迎えた。さらに、今回の SGLT2 阻害薬の登場は、その流れを加速していくことも考えられる。薬物療法の選択肢は広がりを見せたが、最近では、①的確な効果があること、②低血糖を起こさないこと、③体重を増やさないこと、の３点が求められている。各種薬剤の有する作用特性と患者の病態を考慮した上での科学的根拠に基づいた薬剤選択が実施されるべきであり、薬剤師は適正で安全な薬物治療を支援するためにもこれらの薬剤情報を把握した上で、薬剤選択のチェックに加えて副作用および使用上の注意点などに着目した薬学的管理を実践すべきである。一方、インスリン注射手技や血糖自己測定の指導など徐々に薬剤師の行動範囲も広がりをみせており、薬物療法全般に関する療養指導のスキルアップに努めるべきである。さらに、糖尿病では最終的には食事療法、運動療法など日常生活におけるセルフケアが血糖管理、延いては合併症の発症・進展を左右しているということが認識されている。薬剤師も通常の服薬指導のみならず、セルフケア行動の支援に努めることが肝要である。セルフケア行動を支援するには、一般的に行われている医学的知識および技術の供給を目的とした患者教育では不十分である。患者の心理面および社会面に介入することが重要視されている。薬物療法はいうまでもなく有効性のある治療法である。しかし現実には、患者自身が目標やプランを設定し、日常生活の疑問や不安を解消するように、セルフケア行動を支援していくことが肝要となる。このような観点からも、薬剤師は糖尿病患者の薬物療法を支援していく姿勢が必要であろう。